



編集・発行 一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長 川嶋みどり URL: <http://imj.or.jp/>
〒112-0013 東京都文京区音羽1-1-9 パイファルビルディング音羽5階 アドバンテージ株式会社(内)
一般社団法人日本統合医療学会事務局 E-mail: imj@imj.or.jp TEL: 03-5978-6850 FAX: 03-6912-0376

巻頭言



統合医療の世紀を創り広める 第17回日本統合医療学会大会開催の意義

菊地 眞 | 第17回日本統合医療学会(IMJ2013東京大会) 大会長

第17回日本統合医療学会大会を、本年12月20～22日の3日間にわたって東京で開催させていただくこととなり大変光栄に存じます。

同時に、社会・経済的要因から「わが国の健康・医療の考え方とその実践方略」が持続可能な明るい未来社会構築に向けて今まさに大きな舵取りが必要である時期を迎えていることを考え、本大会開催の意義と重要性をしみじみと痛感いたしました。一方で大会準備に当たって、本大会の母体が「日本統合「医療」学会」であるがゆえに、その話題が「従前の狭義の医療実践の枠組み」に囚われることも少なくなく、学会内外の関心の多くがすでにその枠組みの外にはみ出しているのに、果たして本学会がその乖離を的確に受け止めて確かな実践に向けた活動の推進母体となっているかという“ディレンマ”があったことも事実です。

*

今後の医療を考察する際の社会背景として考慮すべきことは、「超高齢社会進展に伴う社会の激変」「医療には高齢者増加による量的変化への対応だけでなく質的要望の変化にも対応することが強く求められていること」「遭遇する変化はかつて経験したことのない事象」に集約されましょう。

これまでの狭義の医療は「医術で病気を治すこと(広辞苑)」であり、多くの医療機関では「1つの臓器に1つの疾患が生じるケースを前提にした医学的対応」を主体にしてきたことから、臓器・細胞を細分化し問題解決に臨む近代西洋医学的手法が極めて有効であったことは事実です。しかしながら、老化の過程に生活習慣病のような病気が加わる全身障害

に対しては最適とは言い難く、平均寿命が80歳を超えた社会で求められる高齢者医療は、「治す」だけでなく、病気と共存しながら「生活の質を落とさない」ことを追求するものであるべきと考えます。高齢者にとってのキーワードが「生活」であることを思えば、「生活の場の中に医療がある」新たな医療提供を模索すべきと感じます。

今後は狭義の医療だけでなく、栄養・食生活・運動などの生活習慣や、精神活動に影響を及ぼす人間関係、QOD (Quality of death) といった従来の医療で取り扱ってこなかった領域をも広範に包含する健康・医療の概念と方略が求められますので、その意味からも狭義の医療を想像されがちな「統合医療」の名称が変わる、よりの確かな呼称を今後検討すべきとも感じた次第です。

*

他方、本年6月に閣議決定された成長戦略の1つとして「健康・医療戦略」が打ち出され、健康・医療産業の振興も大きな課題になっていますので、「セルフメディケーション推進」に役立つ社会生活の場において使用できるホームヘルス機器や機能性食品などの領域の産業振興にも資する多面的活動に関しても、本大会でご討議いただくことを願っています。

*

このような背景を踏まえて、大会テーマを「統合医療の世紀—持続可能な社会における医療：エコ・ヘルスケアの実現」として、新たな医療手段である“エコ・ヘルスケア”を深化させるための踏み込んだ議論ができればと願い種々企画いたしました。広井良典先生の基調講演、猪飼周平先生、久野譜也先

生の教育講演、キューバ共和国自然伝統医学局長による海外招聘講演、芥川賞受賞作家で福聚寺住職・玄侑宗久氏の市民公開講座、さらには西村周三先生、村上陽一郎先生はじめ、国家戦略として統合医療の今後のあり方を検討する関係省庁や宇宙航空研究開発機構（JAXA）など、学会外部からも多くの講師

をお招きいたしました。一方では、学会会員の皆様方の日常活動に直接役立つ「ここまで分かった統合医療」はじめ、9つの「臨床シンポジウム」、「日本統合医療学会支部の会」発表セッションなども設けて、大会参加者のそれぞれの関心に合わせた実りある収穫をお持ち帰りいただければ望外の喜びです。

IMJ2013 東京大会

第17回日本統合医療学会プログラムについて

小野 直哉

第17回日本統合医療学会プログラム委員

「第17回日本統合医療学会（IMJ2013東京大会）」では、すでに統合医療の世紀は始まっており、それは持続可能な社会における医療（エコ・ヘルスケア）であることが必然であるとの認識から、本大会のテーマを「統合医療の世紀—持続可能な社会における医療：エコ・ヘルスケアの実現」としております。その理由は以下の現状からです。

統合医療とは、近代西洋医学のパラダイムや成果を重視しつつも、それを同時に相対化し、人間の尊厳を保障するために、より包括的な医学や医療を実現していこうとする「考え方」です。統合医療は、近代西洋医学を基盤とする現行医療と伝統医学および相補・代替医療により構成される集学的チーム医療です。そのため、近代西洋医学と統合医療は、決して敵対するものではありません。

しかし、近代西洋医学のみの医療以上に多職種にわたる統合医療では、専門職としての身体観や社会的立場の違いにより、信念対立を引き起こし、集学的チーム医療が困難な状況に陥ることが多々あり、既存の診療報酬制度と相まって、統合医療の実践がなかなか進まないのも現実です。

統合医療は、物質文明による消費社会を基盤とする近代西洋医学の発展に伴う疾病構造の変化のなかで、医療や健康の概念が根本的に変容し、必然的に出現したものであり、現行の医学や医療の潮流と分離しては存在し得ません。一方で、日本の医療の主流は、少子超高齢社会の進展に伴い、疾病治療による患者中心の病院型医療（人生における点としてのヘルス・ケア）から、生活の質（QOL）の向上を目指した介護・福祉も含む生活支援による生活者中心の地域包括型医療（人生における面としてのヘルス・ケア）へと変遷しています。また、少子超高齢社会の地域包括型医療では、多岐にわたる医療介護福祉の専門職や相補・代替医療提供者との連携が必

要となっています。さらに、学術的にも現代の医学・医療の展開において生じている新たな潮流（①社会疫学とソーシャル・キャピタル、②脳研究の発展とソーシャル・ブレイン（社会脳）、③進化医学の知見、④心理社会的サポートや精神的ケアへのニーズの高まり、⑤エコロジック的視点への関心の高まり、⑥終末期ケアやスピリチュアリティへの関心の高まりなど）が統合医療の考え方と大きく重なり合ってきています。

これらの現状を踏まえた上で、本大会のプログラムは構成されています。

会期中、第1会場では、統合医療の現状と未来を展望する基調講演「統合医療の意味—人口減少社会という希望」を皮切りに、それを補完する4つの教育講演（『病院の世紀』は終わったか？、「コミュニティと健康増進—ソーシャル・キャピタルとスマートウエルネスシティ」、「進化医学—人類の進化が生み出した病」、「社会的脳（ソーシャルブレイン）—一人は独りでは、人成らず」と2つのセッション（『賢い患者』から『生活者』へ）、『死生観と医療』）、4つの特別講演（『水分子の脳科学』、『科学史から見た統合医療』等）が行なわれます。

第2会場では臨床における統合医療の実践応用としての9つの臨床シンポジウム（『薬とサプリメントと統合医療』、『プライマリー・ケアとセルフメディケーションにおける統合医療』等）が行なわれます。

第3会場では、今後、具体的に統合医療を進展させるために必要な6つのシンポジウム（『災害と統合医療—持続可能な医療システムとしての統合医療』、『変貌する身体観—現実がSFを超える時』、『統合医療を用いた医療・介護福祉施設運営と免許制度』、『極限環境下における統合医療—宇宙鍼灸を例として』、『食と健康—『狙われた胃袋』等）が行なわれます。

第4会場では、各種伝統医学及び相補・代替医療（鍼灸、ヨーガ、アロマセラピー、オゾン療法、ホメオパシー、カイロプラクティック等）の入門セミナーを予定しております。

また、キューバ共和国保健省自然伝統医学局の担当者をお招きし、海外招聘講演「キューバー知られざる統合医療先進国」をご講演いただきます。

さらに、会期中3日間にわたり、『いのち』をめぐる信念対立の克服Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（Ⅰ「なぜ、医療と福祉は

第17回日本統合医療学会東京大会

2つの『公開講座』と『市民公開講座』のご案内

いずれも入場無料 会員も そうでない方も 奮ってご参加ください

近代医学の成果は、急性期医療の質を飛躍的に高めました。拡大する慢性疾患への対応には限界を生じています。また、超高齢社会を迎えて、医療や介護への人びとの関心が高まる一方で、誰もが安心して自分らしく老後を生きる条件は必ずしも整っているとは言えません。そして、いまだ記憶に新しい東日本大震災ならびに原発事故は、人びとの生存を脅かし、今なお、不安に怯えながら暮らしている人も少なくありません。そうした社会事情を受けて、第17回大会では『市民公開講座』を、大会前日には『公開講座Ⅰ』と『Ⅱ』を企画いたしました。

市民公開講座 生への希望と統合医療—福島に必要なこと

日時：12月21日（土）17：30～18：30

演者：玄侑 宗久 福聚寺住職、芥川賞作家

座長：菊地 眞 第17回大会長



1956年福島県三春町生まれ。慶応義塾大学文学部中国文学科卒業。2000年、福島県の臨済宗福聚寺副住職をしながら執筆した「水の触先」が第124回芥川賞候補となり、翌01年「中陰の花」で芥川賞を受賞。現在は福聚寺第35世住職の傍ら、福島県警通訳（英語・中国語）、福島県立医大経営審議委員、東京禅センター理事など。2011年4月から2012年2月までは東日本大震災に伴い、政府の復興構想会議の委員も務めた。

公式サイトは、<http://genyu-sokyu.com>

玄侑先生は福島原発事故後も現地に腰を据えて、国の原発政策を被災地から批判されています。

新潮社刊の「光の山」には、災害後何時までも放置され続けている現地の苦悩を被災地での人びとの本音に寄り添いつつも、随所に現実を見る厳しい作家の目を感じさせられる書であると思いました。また、禅僧であるご自身の体験から、一人でも多くの方が楽で元気になってほしいと書かれた近刊の『禅的生活』（ちくま新書）は、日常的にはあまり馴染みのない禅語に触れて、生きづらい現代の優れた〈処方箋〉とも感じられる一冊です。

宗教家として作家として、常に人間の深層にアプローチされる先生のご講演は、きっと多くの方のみなさまの心に触れることでしょう。多くのご参加をお待ちいたします。

（川嶋みどり 日本統合医療学会副理事長）

分かり合えないのか」、Ⅱ「医療従事者と患者のコミュニケーションギャップ」、Ⅲ「『心の可視化』と『マインドフルネス』」が行なわれ、統合医療を実践する際に直面する患者や生活者と各医療福祉専門職種間での信念対立をいかに乗り越えるかの手掛かりを考えます。

また、本大会の全てのランチョンセミナーでは、東京

療院様のご協力、食材の生産段階はもちろん、調味料にもこだわった、食材本来の味覚の楽しみと健康にも寄与する自然食のお弁当をご用意しております。

いずれのプログラムも統合医療の現状と未来を展望する上で必要不可欠な事柄です。皆様の振るってのご参加を心よりお待ちしております。

公開講座 I は、医療と福祉の相互理解と共存の方途を激しく探るセッションです。

公開講演 なぜ、医療と福祉は分かり合えないのかー「いのち」をめぐる信念の対立の克服

演者 京極 真 (吉備国際大学 保健医療福祉学部 准教授)

座長 川嶋みどり (日本赤十字看護大学 名誉教授)

医療と福祉は社会の安全弁であり、ここが機能不全になると生命と生活の安全と安心を担保できなくなる。つまり2つの生(生命と生活)を守るためには、医療と福祉のしなやかな連携が欠かせないと言える。しかし長いあいだ、医療と福祉のわかりあえなさが続き、両領域で働く人たちの疲労と落胆は、その表情からも想像できる。その結果、医療・福祉の受け手もそのはざままで苦しんでいると思われる。そこで、「信念対立解明アプローチ」により解決策を提示してみよう(抄録より)。

公開対談 看護と介護、医療と福祉の連携ー看護と介護、医療と福祉は1つになれるか

演者 太田 貞司 (聖隷クリストファー大学 教授)

演者 川嶋みどり (日本赤十字看護大学 名誉教授)

座長 守田美奈子 (日本赤十字看護大学 教授)

太田教授の主張を要約しますと、「問題は、近代以後問われてきた日本人の「日常生活」観。また、「地域包括ケアシステム」構築は、看護師も必要だが、人口1万人に400人弱の介護職が必要となる。介護チームづくり、他職種と連携促進、次世代育成を担う中核介護福祉士が育たなければ、構築は「絵に書いた餅」ということです。川嶋は「看護と介護の本質は同じ、利用者目線に立ってどうしても1つにならなければならない」ことを話そうと思います。2人の意見がうまく噛み合うといいですが。

公開講座 II <統合医療女性の会>

12月20日 16:00~17:40

世話人 | 板村 論子 |

帯津三敬塾クリニック

公開講演 乳がん治療のリアル

演者 山内 英子 (聖路加国際病院 乳腺外科 プレストセンター 部長・プレストセンター長)

座長 渥美 英子 (統合医療女性の会 代表)

公開対談 更年期女性のクライシス

演者 香山 リカ (立教大学 現代心理学部 教授、精神科医、作家)

演者 板村 論子 (医療法人財団帯津三敬会 帯津三敬塾クリニック 理事長)

座長 小山 悠子 (医療法人社団明悠会・サンデンタルクリニック 理事長)

<統合医療女性の会>では、今後の活動の1つとして、「女性のライフサイクル」に沿った統合医療のありかたを提案していきたいと考えています。

今回の第17回東京大会では、その端緒として「更年期女性のクライシス」をテーマに公開講座を企画いたしました。特別に意識はせずとも、誰もがライフサイクルは男女の性差によって異なると感じていることでしょう。特に女性は結婚や出産を機に、それまでと生きかたを大きく変えるケースが少なくありません。さらに子育てが一段落した40歳から60歳の中年期は、多くの女性にとって人生における「クライシス」となります。というのも、ホルモンバランスの変化により更年期を迎え、乳がん、卵巣がん、子宮体がんの発症が増える時期にあ

たるからです。また、こうした「身体的喪失」に加えて、子どもが成人し独立していくことによる「空の巣症候群」やうつなど「精神的喪失」も多く見られます。まさに中年期は女性にとって心身両面の「クライシス」なのです。

公開講座 II では、前半で聖路加病院プレストセンター長の山内英子先生に乳がん治療の最前線について講演していただきます。山内先生は順天堂大学医学部を卒業後、ハーバード大学ダナファーバー癌研究所、ジョージタウン大学ロンバーディ癌研究所、南フロリダ大学モフィット癌研究所にて外科の臨床経験を積まれました。現職では、乳がん患者の1人ひとりに寄り添うチーム医療を実践されています。

後半では、精神科医であり、立教大学教授でもある香山リカ先生と、<統合医療女性の会>世話人の板村論子による対談を予定しています。皆様もご存知の通り、香山先生は豊富な臨床経験を活かし、各メディアで現代社会の抱える問題を鋭い視点から論じられています。東京医科大学を卒業され、精神病理学を専門とされています。著書は、『ココロの美容液』『ひとりで暮らす 求めない生き方』『知らずに他人を傷つける人たち』『老後が怖い』など多数あります。

山内先生と香山先生、両先生の立場から独自の視点で「更年期女性のクライシス」について語っていただきます。女性会員だけでなく男性会員もふるってご参加ください。

医療法人社団明徳会 福岡歯科

| 福岡 博史 |

医療法人社団明徳会福岡歯科理事長

当法人は約40年前より、福岡明（本学会名誉会員）を所長とする福岡歯科東洋医学研究所を開設し、日常歯科臨床において鍼灸を中心としたさまざまな東洋医学的療法を研究、実践してきました。その内容は100編以上の著書や論文にて発表しております。

2002年には、幅広くCAMを研究・導入していくため福岡歯科統合医療研究所と改名、同時に歯科診療所に隣接して鍼灸マッサージ院を併設し、歯科医師とCAM治療者との連携を推進しています。

統合医療を実践することにより、通常の歯科医学のみでは治療できない疾患への対応や、通常の歯科医療をアメニティ・メディスンにすることより、歯科疾患の予防や口腔管理の継続性へと結びつけています。また、統合医療により、局所的・機械論的な歯科治療から脱却し、Body・Mind・Spiritまでを考えたホリスティックな歯科医療を目指しています。

実践内容は、新刊・福岡博史編著『ヘルシー・エイジングに役立つ歯科統合医療』（医学と看護社）にまとめています。

医療法人社団明徳会福岡歯科

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-8-3
 郵船茅場町ビル3F
 TEL：03-3664-3690 FAX：03-3667-4848
 ホームページ：www.418.co.jp/fukuoka/
 E-mail：office@fukuokadental.jp



医療法人財団帯津三敬会 帯津三敬塾クリニック

| 板村 論子 |

医療法人財団帯津三敬会帯津三敬塾クリニック理事長

当クリニックはホリスティック医学のさらなる実践の場として2004年に、帯津良一によって設立されました。完全予約制で自由診療の形態で統合医療を行なっています。

“今日より良い明日”にもとづき、からだ、こころ、いのちの3つが渾然一体となった、人間まるごとを対象とするホリスティック医学の理想を求めつつ、患者さん1人ひとりがホリスティックな生き方に目覚めこれを実践していくためのサポートを行なっています。

受診患者のほとんどが従来の治療をすでに受けていますが、当クリニックにおいて漢方、ホメオパシー、サプリメント、精神療法（森田療法や精神分析）を個別的に多角的に受けることができます。医師はホリスティック医学協会会長／日本ホメオパシー医学会理事長である帯津良一、日本東洋医学会専門医で中国漢方の滝原章宏、日本ホメオパシー医学会専務理事の板村論子の3名です。

“塾”と名がついているように、当クリニックは学びの場として、勉強会やセミナーの開催、週2回の気功教室も行なっています。

医療法人財団帯津三敬会 帯津三敬塾クリニック

〒171-8505 東京都豊島区西池袋1-6-1
 ホテルメトロポリタン地下1階
 TEL：03-5985-1080 FAX：03-5985-1082
 ホームページ：http://www.obitsu.com/



第31回日本東方医学会学術大会／市民公開講座

第31回日本東方医学会学術大会 メインテーマ 「腸と健康」

日 時：平成26年2月23日（日）
 会 場：東京国際フォーラム
 会 頭：田代 眞一（病態科学研究所所長）

プログラム

会 頭 講 演 「漢方はなぜ効くか？ どう効くか？」
 田代眞一 先生（病態科学研究所所長）
 シンポジウム 「入れ物と中身～腸管免疫と腸内細菌」
 シンポジスト：山田 陽城 先生（北里大学名誉教授）
 伊藤 喜久治 先生（元東京大学大学院農学生命科学 教授）
 新井 信 先生（東海大学医学部 准教授）
 参 加 費 会員：5,000円、学生：1,000円、非会員：6,000円

優待 新入会された方は、学会か市民公開講座のどちらか希望により無料です。（25年度入会者）

主催：財団法人東方医療振興財団
 後援：厚生労働省・日本医師会

【お問い合わせ】

（財）東方医療振興財団内 日本東方医学会事務局
 東京都千代田区有楽町1-9-1 日比谷サンケイビル3F

TEL：03-5220-1225
 FAX：03-5220-1241

市民公開講座 メインテーマ 「心とからだを癒すお話し」

日 時：平成26年3月30日（日）
 会 場：有楽町朝日ホール 東京都千代田区有楽町2-5-1

プログラム

講 演 「がんと免疫力」
 鳥越 俊太郎 先生（ニュースの職人）
 「食で変えませんか、健康な心と体に」
 大塚 眞 先生（教育・食育アドバイザー）
 「病気になるないための食生活」
 谷 美智士 先生（医長白会タニクリニック 院長）
 他 演 奏 ころと体を癒すメロディー
 参 加 費 一律1,000円

第17回日本統合医療学会の開催にあたり

会場担当 | 守田 美奈子 |
日本赤十字看護大学教授・学部長

平成25年12月20日から22日までの3日間、第17回日本統合医療学会が日本赤十字看護大学で開催されます。開催校として一言ご挨拶をさせていただきます。

本学は明治23年に誕生し、平成27年には創立125周年を迎える看護大学です。日本統合医療学会が看護系大学で開催されるのは初めてだと伺いました。本学は小さな大学ですが、都心にある看護系大学のメリットを生かして、皆様に快適にお過ごしいただけるよう配慮していきたいと思っております。

たくさんの方にお越しいただけますよう、お待ちしております。

●日本赤十字看護大学

〒150-001 東京都渋谷区広尾4-1-3

TEL: 03-3409-0875 (広尾キャンパス総務課)

・渋谷駅より都バス(学03)日本赤十字医療センター
行終点下車

- ・JR恵比寿駅より都バス(学06)日本赤十字医療センター行終点下車
- ・東京メトロ日比谷線「広尾駅」六本木寄り口下車徒歩15分

看護における臨床アロマセラピー

| 相原 由花 |

ホリスティックケアプロフェッショナルスクール

1960年以降、米国では看護のパラダイムに立ったモデルや理論が形成され、看護師に自律的に介入をすることが求められた結果、CAMが注目されるようになりました。しかし日本においては、看護援助法としてCAMを捉えるところまでは達していません。そこで本セミナーでは、特に看護師に関心が高い「臨床アロマセラピー」を取り上げ、香りやタッチが患者の症状緩和やQOLにどのような有用性を示すか、また全人的看護としてどのような意味があるのかを実践方法とともにご紹介いたします。

本セッションは、第15回日本ホリスティックナーシング研究会との共催です。

事務局だより

【学会事業報告】

- 10月5日(土) 鹿児島支部設立記念大会
会場: 城山観光ホテル(鹿児島県)
- 10月12日(土)・13日(日) 認定および更新セミナー
会場: 東京大学医学部セミナー室 参加人数: 48名
- 11月3日(日) 第3回日本統合医療学会山形県支部大会
会場: あこや会館第一会議室
- 11月4日(月・祝) 阪奈支部大会
会場: 日本ヨーガ・ニクタン関西支部会議室(兵庫県)
- 11月17日(日) 第2回教育セミナー
会場: 東京大学医学図書館333号室

【今後の学会事業予定】

- 11月30日(日) 山口県支部大会(第11回山口県統合医療学会総会)
会場: 山口県立図書館レクチャールーム
- 12月1日(日) 福島支部設立記念大会
会場: 福島県青少年会館 1階大研修室

- 12月20日(金) 平成25年度第2回通常理事会
- 12月21日(土)・22日(日) 第17回日本統合医療学会大会
会場: 日本赤十字看護大学
- 12月21日(土)12:00~13:00 代議員会
会場: 日本赤十字看護大学 202教室
- 日時: 12月22日(日)第8回認定試験
会場: 日本赤十字看護大学 202教室
- 日時: 12月22日(日)13:00~13:20 会員総会
会場: 日本赤十字看護大学 広尾ホール

【お知らせ】

- 2013年度年会費納入済の会員の方には、カード式会員証を発送しております。第17回日本統合医療学会参加受付でのご提示が必要となりますので忘れずにご持参頂きますようお願いいたします。
- 2013年度会員総会を12月22日(日)13:00~13:20日本赤十字看護大学広尾ホールで行います。会員の皆様にはご参加を頂きますようお願いいたします。(文責:事務局長 河野 明正)

編集後記

●17回大会は、「統合医療の世紀」の実現に向かう多彩で密度の濃いプログラムが並行して進みます。事前にご自分の関心とテーマをつきあわせてどこに参加するかをご検討下さい。どのセッションも魅力的な登壇者を迎えて学術的で意義ある討論ができることでしょう。本大会が、統合医療を掲げた各領域間の相互理解を深める機会になり、公開講座を軸に一人でも多くの方たちが統合医療への理解を深めて頂けるよう念じております(川嶋どり)。



オゾン療法のすべてが
この1台で!

ヘンスラー社
オゾン発生器
(EC:医療用機器認可製品)

オゾンガス発生濃度
1~100µg/mL
オゾン水の最大オゾン濃度
20mg/L
高さ:85cm 幅:45cm
奥行:45cm 重さ:38kg

オゾン水の殺菌効果は1mg/L以上の濃度で十分発揮できます。冷蔵庫保存が可能です。使用時に濃度の確認が必要です。さらに必要に応じて希釈して使用します。

オゾン療法 NOW and FUTURE

オゾン水は火傷や褥瘡に洗浄水として使用しますが、さらに組織の再生に効果があります。また、インフルエンザが大流行した時、学校や病院などでオゾン水によるうがいを奨励しましょう。オゾン濃度4mg/L水は気管にも害がなく、オゾンはウイルスも耐性菌をも迅速にやっつけます。災害時にはバッテリーなどの電気と空気と水でオゾン水は簡単に製造でき、衛生状態の維持にも役立ちます。手じかな方法こそが非常時にはもとめられます。

左の写真は、病院用のオゾン水製造機能付のオゾン発生器です。

日本オゾン療法研究所 / (有)オゾノサン・ジャパン Tel/Fax 011-818-8324
〒062-0906 札幌市豊平区豊平6条6丁目5-47-603 (ホームページ <http://ozonosan.co.jp>)

